

方針3：公共交通の利便性向上

多様な人々が利用しやすい、利用者ニーズに応じた公共交通の利便性向上を図る。

<現状、課題等>

- ・公共交通利用者が減少するなか、利用促進に向けて公共交通の利便性を向上させることが必要
- ・高齢者、障害者、子ども連れの人など、多様な人々が、安全・快適に移動できる公共交通サービスが必要



<基本的な考え方>

- ・乗り継ぎや移動利便の向上
- ・安全・快適に移動できる交通環境の形成



<具体的な施策例>

- ・交通系ICカードの導入
- ・バスロケーションシステムの導入や運行情報の提供など情報案内の充実
- ・バリアフリー化のさらなる促進など移動の円滑化
- ・阪堺線へのLRV導入、軌道改修など快適性の向上

方針4：公共交通の利用促進

公共交通の維持・活性化と環境負荷の低減に向けた公共交通の利用促進と機能改善を図る。

<現状、課題等>

- ・公共交通利用者が減少するなか、利用者増加に向けた取り組みが必要
- ・低炭素社会の実現に向け、自動車利用から公共交通や自転車などへの転換と車両等の環境性能の向上が必要



<基本的な考え方>

- ・公共交通利用の啓発
- ・公共交通の利用環境の整備
- ・自動車利用の適正化
- ・環境負荷の少ない交通手段の導入



<具体的な施策例>

- ・公共交通の利用に関する総合的な情報提供・広報
- ・モビリティマネジメントなど公共交通の利用啓発
- ・高齢者割引、ゾーンチケット導入など利用拡大の促進
- ・駅アクセス道路の整備、駅周辺の自転車利用環境の向上など駅等へのアクセス機能の向上
- ・パークアンドライドやカーシェアリングの促進など自動車利用の適正化
- ・駐車場整備計画の見直しや環状道路の整備など都心への自動車流入の抑制
- ・低公害車両の導入促進など環境性能の向上

<公共交通への転換イメージ>

自動車利用の場合

メリット

ドアtoドア（最短距離）、荷物の運搬に便利 など

デメリット

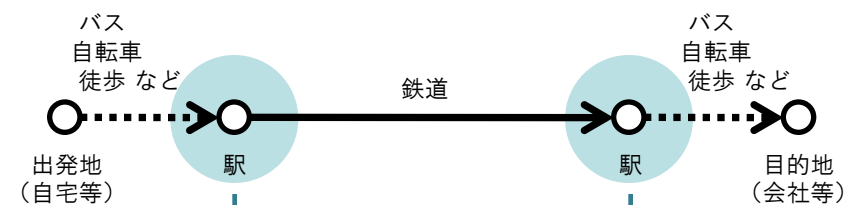
走行空間や駐車場など占用面積が大、環境負荷が大、保有コストが大 など



公共交通利用への転換を図るためには

- ・乗り継ぎ利便性の向上
- ・情報案内の充実
- ・移動円滑化の推進 など

- ・交通系ICカードの導入
- ・ゾーンチケットの導入
- ・運行情報の提供 など



駅機能の向上

（バス・自転車・自動車と鉄道との乗り継ぎ利便性の向上など、駅を中心とした交通機能の集約化）



駅周辺を含めた利便性の向上